



『スパークス 日本株長期投資のすすめ』

スパークスの株式投資、株式市場などに対する見方を紹介するコラムです。

第52号(2009年7月24日)

「投資銘柄の長期保有」

株式投資で成功する際に必要なのは、徹底的に企業の内容を調べた上で、本当に良いと思える銘柄(*)を自分の考える妥当な実態価値に比べて安い価格で買い(**)、忍耐強く保有し続けることです。ここでいう忍耐強くとは、その事業が構造的な価値毀損に見舞われない限り、株価が上昇して実態価値を反映するまで持ち続けるという意味です。つまり一時的な企業の業績低迷期に起きる株価低迷も我慢しなくてはなりません。

同様のことが投資信託についても言えます。ある業界統計によると、1988年から2007年にかけて米国の投資信託は年率平均11.6%のリターンを達成しましたが、それらに実際に投資した個人投資家たちは同4.5%のリターンしか挙げられていないという結果がでています。このような2桁リターンを取りこぼしているという大きな差(機会損失)が生じているのは、投資信託の売買を繰り返すことに起因しています。

株式投資同様、投資信託についても市場全体の目先の動向を先読みして売買を繰り返したり、直近のパフォーマンスが低迷している投資信託から、よりパフォーマンスの良いものへ乗り換えたりという行動が起きるためです。しかし実際には、良かれと考えると積極的にとった投資行動がかえって享受できるリターンを悪化させていることがわかります。

以前2008年7月4日、18日付の「日本株長期投資のすすめ」でご紹介したように、とりわけ売買手数料や売却益にかかる税金コストを勘案すれば短期売買は高い成果に結びつきにくいだけでなく、複利効果がもたらすメリットも十分に発揮できないこととなります。私共は投資銘柄の長期保有を基本方針としています。

- * : 銘柄選びの視点については、2008年8月8、22、29日付け、同9月12、26日付け、同10月3、10、17、24日付け、同11月28日付け、09年2月27日、同3月27日付け「日本株長期投資のすすめ」を参照下さい。
- ** : 企業の実態価値や株価のバリュエーションについては、2008年9月5日付け、同12月26日付け「私共は投資銘柄の長期保有を基本方針としています。」を参照下さい。

(注) 本コラムは、マネックス証券Web-Site「マネックスラウンジ」の「マネックスメール」に掲載されている「スパークス・アセット・マネジメントの『SPARX Way』」をもとにスパークスが作成したものであります。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。